

アークティックサンジェルパッド使用管理基準

2025 年 4 月

【採用規格】

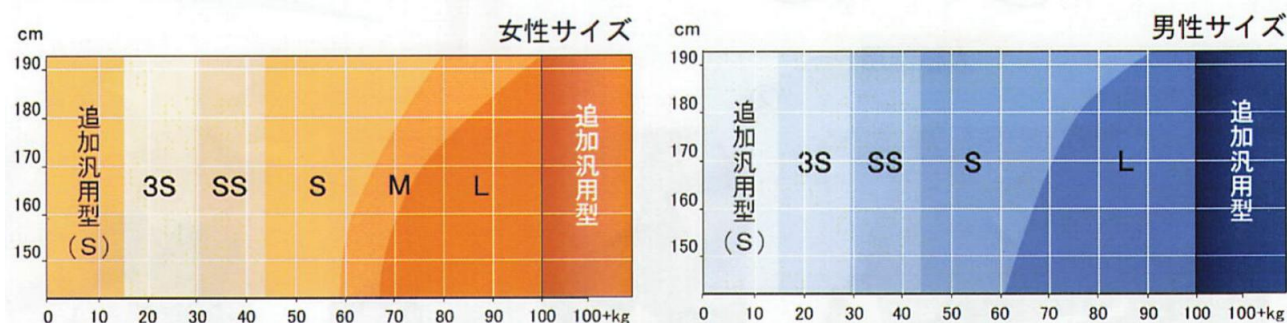
- SS サイズ
- S サイズ
- サイズ選択の基準は、体表の 30～40%が覆われる程度とされており、腹部及び大腿部が概ねパッドで覆われているサイズが望ましい。
- ジェルパッドのサイズは、性別・身長・体重から適正なサイズのパッドを選ぶとされており、〔図 1〕を参考にサイズを選択する。

Arctic Sun™の成人用パッドは4枚で1セットです

体表の30-40%を覆うパッドが皮膚に密着することで、体温を調節するシステムです

患者さんの身長・体重から適正なサイズのパッドを選び、必ず4枚貼付して使用してください

例)女性：身長160cm 体重58kg→Sサイズ



- ジェルパッド開封前に、必ず透明の見本型を用いて対象患者に適切なサイズを選択する。見本型はアークティックサン STAT 本体にかけてある袋に保管しているため、使用後は必ず同じ場所に戻す。見本型は、S サイズ上半身 1 枚、S サイズ大腿部 1 枚、SS サイズ上半身 1 枚、SS サイズ大腿部 1 枚の計 4 枚あり、収納時にすべて揃っていることを確認し、汚染があればクリーンキーパーで清拭する。

【導入時】

- 患者へジェルパッドを貼付する際、必ずアドプロテープクッション（以下、アドプロ）を以下の位置に貼付する。詳細な貼付位置は〔図 2〕参照。
 - 腋窩周囲（ジェルパッド側）
 - 膝周囲（ジェルパッド側）
 - 乳頭乳輪（患者側：ジェルパッドが接触している場合のみ）

※ 適切なサイズ・位置で貼付されている場合、ジェルパッドが乳頭乳輪部には接触しないため、貼り直しも検討する。



- アドプロは包交車 2 段目に、事前に 5×10cm でカットしたものを用意しているためそれを使用してよい。
- ジェルパッドの装着方法については〔図 3〕を参考にする。



【日勤帯でやること】

- TTM 導入後初回の保清時にジェルパッドを患者からすべて剥離し、全身の皮膚状態を観察する。
- 皮膚状態を観察し皮膚発赤や皮膚障害を認めた際は同部位がジェルパッド辺縁に触れない位置に貼付可能か検討し、可能であれば発赤部位を避けて再貼付する
- ジェルパッド再貼付時に皮膚と接触する辺縁にはアドプロを追加する
- 2 回目以降の皮膚観察時はジェルパッドをすべて剥離する必要はないが、辺縁は剥離しジェルパッド辺縁部の皮膚の状態を観察する。

【夜勤帯でやること】

- 準夜帯、深夜帯で各 1 回ずつジェルパッドの辺縁を剥離しジェルパッド辺縁部の皮膚の状態を観察する。

【スキントラブル対策】

- 当院では、過去 3 年間で腋窩・乳頭乳輪部・脊柱に、ジェルパッドに起因したスキントラブルが発生しておりそれらの位置は特に重点的に除圧・観察を行なうようにする。
- 詳細は〔図 4〕スキントラブル発生機序・防止策を参照。

① 輸液等による浮腫(体重増加)

- 皮膚が**脆弱**になりやすい

スキントラブルが増加するリスク因子

- 栄養状態不良
- ステロイドや大量の昇圧剤を投与
- 糖尿病
- 末梢血管疾患 など

② Arctic Sun™の循環制御は陰圧

- 陰圧部分(パッドの辺縁部)に**一定の圧**がかかる

③ パッドは伸縮しない

- 浮腫で体が大きくなり、**パッドが皮膚に食い込む**



ジェルパッドは
皮膚に優しいが…

パッドの**辺縁部に圧がかかる**ことで、
褥瘡が発生する可能性がある

スキントラブル防止策

パッドを正しく装着

背骨左右1cm程度開け、大幅に開けすぎない

- 背骨の上にパッドを貼ると、圧による褥瘡発生の可能性
- 背骨の左右1cm以上大幅に開けると、皮膚がよれてスキントラブルの可能性

適正なサイズを選択

- パッドが大きい場合、骨突出部にパッドがあたる可能性

乾燥した皮膚に装着

- 塗布剤は、パッドのハイドロゲルが、薬液を吸収してしまうため避ける
- 潰瘍、火傷、蕁麻疹、発疹のある皮膚上にはジェルパッドを当てない

背部



定期的な圧の解除

定期的に位置を変更

- 循環制御が陰圧管理のため、パッドの辺縁部に圧がかかる

定期的に、パッドがきつすぎないか確認

- 心停止後は浮腫が増強するため、冷却時間とともにパッドが皮膚に食い込む可能性

- **4～6時間毎に、もしくはそれより短い時間で観察**
- **パッドは無理やり引っ張らず、ゆっくり剥がす**